

第2回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和7年10月17日（金） 午後1時から午後3時30分まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 16名中13名出席（欠席3名）
- (2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) アンケート結果およびタウンミーティング結果について
- (2) さらなる特色化・魅力化について
- (3) 学校規模・配置について
- (4) その他

5 意見交換における主な発言概要

（1）さらなる特色化・魅力化

○県内公立高校の進学状況や実績を見ると、教育水準の低下が懸念される。このことは本県産業の競争力にも大きく影響しており、特色化・魅力化の取組以上に、学力向上を最優先課題として位置付けるべき。

○日本の高校生には、「今日頑張らなくても明日何も変わらない」という感覚が根強い。どのような特色を持つ高校においても、地域や産業界などと連携し、実践的な体験の機会をつくることで、目的意識を持って学ぶ意欲を育むことが重要。

○各高校の特色を際立たせ、生徒の「やりたいこと」を丁寧に捉えながら、生徒の資質・能力を十分に伸ばし切る高校を作っていくことが重要。

○新学科・コースの検討においては、本県が育成を目指す人財像を考慮し、総合的・探究的な学びやSTEAM教育に加え、地域課題を世界規模の視点から捉えて解決策を考えるグローバルな視点からの学びを重視すべき。

○特色化・魅力化の鍵は予算化にあり、全国の事例から、教育資源を確保するためには、国の予算活用や市町村の参画、産業界との連携が必要。

○本県では、スポーツ、文化芸術、学力の各分野でのリーディングハイスクールがそれぞれ指定されており、それらの学校の取組をさらに充実させるためには継続的な支援が必要。

○県内の校舎整備の状況や今後の高校無償化及び学区撤廃による影響を踏まえ、県西部や県南部における高校の施設・設備の充実に優先的に取り組むべき。

○各地域の教育及び医療を担う人材の育成のために、鳴門高校の取組や他県の事例を参考に学びの機会確保を検討してはどうか。

○今後のさらなる人口減少を見据え、本県における産業構造の将来的な変化や、エンジニアリングワーカーの不足への対応といった視点も必要。

(2) 学校規模・配置

【適正な学校規模・配置について】

- 公立高校として、進路実現に必要な最低限の選択科目や、十分な指導体制を全県の生徒に保証するとともに、対面での日常的な集団生活において表現力や判断力、対人関係スキルなどを育成するためには、一定の学校規模が必要。
- 各地域の生徒数がさらに減少する中、現在の高校配置を維持するのは難しいと考えられる。限られた教育資源を、全県的な視点から最も教育効果が高まるよう、戦略的に投入すべきであることから、学校規模や再編に関する基準等の設定が必要。
- 教育的観点からは学校規模は多様であっていいと考えるが、財政的観点から経営資源をどう振り分けるかという現実的な課題があり、両面からの検討が必要。
- 基準については、県下一律ではなく、通学時間や地域唯一の高校であるといった地理的条件に加え、市町村が県とともに人や予算を投じて学校を支える意欲の有無を、重要な判断基準とすべき。
- 通学可能な範囲に小規模校もあれば一定規模の学校もあるといったように、学校規模についての多様性が確保されることが望ましい。

次の内容について、委員間での共通認識が図られた。

- ・現在の高校配置は持続可能ではない。すべての高校の規模を先細りさせることになるため、学校規模の見直しと再編は不可避であり、公平性と全県的な納得が得られる明確な基準設定が必要。
- ・基準の適用については、各地域の実情を鑑み、全県一律とせず、地域からの支援や学校の特性等に応じてきめ細かく設定・運用すべき。

【拠点校の指定・整備について】

- どこに居住していても、通学可能な範囲に行きたい学校があることを実現できるよう、拠点校を各地域に配置しておく必要があり、学校規模は4～5学級の維持が望ましい。
- 拠点校が各地域の教育の拠点となるのであれば、普通科以外の学科の設置や教員配置を含めた検討が必要。
- 拠点校化については、例えば、単に「3校のうち2校を廃止する」との発想だけでなく、「新たにキャンパスを整備して1校をつくる」「複数のキャンパスをもつ1校にする」といった選択肢もあることから、各地域の実情に応じた最適な方法を選択すべき。
- 教育環境の公平性の観点から、県西部・南部における拠点校の指定・整備が必要であり、それが学区撤廃への対応策になると考えられる。

次の内容について、委員間での共通認識が図られた。

- ・地域における拠点校の設置を進める必要があり、今後は、拠点校の具体的なイメージを整理すべき。